

四季の鳥

私たちの近くに息づく野生

[文・写真] 中田一真

トウネン

— 100000 kmの旅の途上で

大昔の流行り歌ではないけれど、今はもう秋、9月の海には誰もいない。コンクリートの堤防と寄せらる波の間に、延々と続く砂浜。波しぶきのかすみの彼方に、アリのよう

に動く鳥影が見えた。
北極圏で繁殖をするシギの仲間
は、8月にもなれば子育てを終え、
越冬地に向かう旅を始める。いわゆる秋の渡りだ。南半球のオーストラリアやニュージーランドまで渡る種類もあるというから、その移動距離は100000 kmを超えることもある。先に繁殖地を離れるのは成鳥。

遅れて、幼鳥たちが後を追う。
目の前の砂浜で波と戯れているのはトウネンの幼鳥たち。北極圏で生まれ、親鳥たちが旅立った後、誰に教わったわけでもないのに、生まれて初めての旅に出た。砂浜や干潟を転々としながら、こうして日本までやって来たのだ。

誰もいない、何もない海岸線こそ彼らの生命線、食糧補給と翼を休めるための旅の宿だ。今や切れ切れの生命線をたどりながら、若きトウネンたちは100000 kmの旅を続ける。

なかた・かずま

1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。

【中田一真のホームページ】

<http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/>

トウネン チドリ目シギ科
全長15cm

【撮影地】石川県羽咋市

© NAKATA Kazuma